



地域で災害に備えよう 自主防災活動研修大会を開催

自主防災活動研修大会が3月4日、安来節演芸館で開催されました。安心・安全に暮らせる地域を目指して自主防災活動や地域の関わり方についてともに考えようと、安来市自治会代表者協議会が主催、約250人が参加しました。

大会では、実松町の事例発表や、福島県川俣町出身で、とっとり震災支援連絡協議会事務局長の佐藤順子氏の講演が行われました。佐藤氏は、東日本大震災や昨年の鳥取中部地震の事例を踏まえ、災害時には女性や高齢者など社会的弱者の困りごとが顕著に現われると説明。「災害はいつやってくるかわからない。普段から地域でさまざまな意見が出せる環境づくりが理想。いろいろな人の立場に思いをさせ、いざという時に動けるような地域を」とネットワークづくりの重要性を訴えました。

一年かけて発酵させました 中学生がマイ醤油づくり

地産池消活動に取り組む「フードチャレンジやすぎ」は、市内の学校に出かけて食育活動を進めています。この活動の一環として伯太中学校では、大正屋醤油店山本周作さんの指導でマイ醤油づくりに挑戦しています。

2月7日には2年生が一年前に仕込んでいた「もろみ」を絞り生醤油を作りました。同校では1年生の時に大豆と小麦、麴をペットボトルに入れて仕込み、一年かけて発酵させ、2年生の時に絞って製品にします。横田大河さん（14歳）は「醤油づくりは一年がかりで長かったです。早く家で味見をしてみたい」と話していました。



まちの話題や出来事を紹介します



寮生活をユニフォームで応援

3月3日、寮生活をしながら安来高校に通う生徒へNEC山陰支店からエール。プロバレーボールVリーグ女子NECレッドロケッツのサイン入りユニフォームが寮に寄贈されました。

今日の一枚



▼もろみを専用の袋に入れていよいよ絞ります。





河井寛次郎の作品を市に寄贈

京都にある河井寛次郎記念館の河井敏孝館長が近藤市長を訪れ、河井寛次郎の作品を市に寄贈しました。昨秋に開催した没後50年記念事業「今こそ永遠 河井寛次郎」に対して謝辞を述べられ、そのお礼として寄贈されたものです。

作品は「三色扁壺」。晩年（昭和36年頃）に作陶されたもので、薄くかけられた石灰釉の上に、三色の打ち藁がかけられています。

市ではこの作品を新安来庁舎などに展示し、名誉市民河井寛次郎を顕彰していきます。

旧東比田小学校に歓声響く

平成16年まで東比田小学校として使用されていた東比田交流センターで2月16日、比田小学校5・6年生の児童と地域住民が、「復活！夢授業」を行いました。

授業は、地域へ感謝の気持ちを表そうと比田小が企画。児童は住民と一緒に国語の授業などを楽しみました。交流会では、各児童が縄跳びやコントなどの特技を披露。元気な子どもたちの姿に会場は終始にぎやかな雰囲気にも包まれていました。



▲地域の皆さんとオリジナルのスピード数え歌を作成。

日本遺産認定記念特別展「玉鋼縁起」を全巻展示

「出雲國たたら風土記」が日本遺産に認定され、間もなく一年になります。その構成文化財を収蔵する和鋼博物館では、3月4日から認定記念特別展を開催しています。

常設展示されている「たたら製鉄用具」のほか、松本春々作「玉鋼縁起」を13年ぶりに全巻公開。絵巻には、「たたら製鉄」にゆかりのある金屋子神話の時代から、鉄の積み出しで賑わう近代の安来港の様子までが壮大なスケールで描いてあります。全長55メートルになる絵巻の展示に、来場者は見入っていました。



特別展は4月5日まで開催しています。また、春々作「安来神社夏季例祭奉納屋臺絵巻」（市指定文化財）も同時展示しています。



日本遺産認定を記念した切手シートが発売されました

日本遺産に認定された「出雲國たたら風土記」。この認定を記念したオリジナルフレーム切手セットが2月中旬から発売されました。日本郵便株式会社中国支社が作成したもので、県内東部・隠岐地方の郵便局で取り扱われています。日本遺産の構成文化財がデザインされた切手10枚（82円）と、日本遺産を紹介する台紙がセットになっています。価格は1,600円で、1,500部の限定販売です。

2月15日には市内の並河局長（安来中郵便局）、布野局長（同安来）、川井局長（同比田）が近藤市長を訪れ、新切手セットを紹介しました。